



**急遽エース投入**

17日は、優勝候補の長野戦。先発マウンドは長谷川さんを起用しましたが、7年振りの野球大会参加の為か、コントロールが定まらず、急遽エース笹川さんを投入して食い下がりました。

**急遽エース投入**

5月17日・18日、東京・大井埠頭中央海浜公園で、国労東日本本部第13回野球大会が開催されました。新潟地本は、家族を含む10人で参加しました。

18日は、前回優勝の高崎戦でした。先発マウンドは近藤さん。立ち上がり無失点の上々のスタートでした。これを弾みに、新潟の攻撃に期待するもホームベースが遠く、逆に味方のエラーから失点を重ねて

**チャンスは作ったが**

攻撃では、阿部さん・近藤さんの長打も出てチャンスは作ったが若い力も加わった長野に圧倒され5回コールド完封負けでした。



# 国鉄新潟

NO. 753  
発行  
12・5月26日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
関川 和彦  
編集責任者  
教 宣 部

# 次回は悲願の勝利を



## 参加選手

- |         |          |
|---------|----------|
| 佐藤（昌）選手 | 新一運      |
| 佐藤翔太選手  | 家族       |
| 本多選手    | 新一運      |
| 加藤選手    | 新潟車両センター |
| 阿部（光）選手 | 新潟駅      |
| 石川選手    | 新津駅      |
| 笹川選手    | 直江津運輸区   |
| 福富選手    | 長岡車両センター |
| 近藤選手    | 長岡車両センター |
| 長谷川選手   | 長岡車両センター |



長野地本戦 0x10  
高時地本戦 3x11



しまいました。新潟も4回、本多さんのタイムリー等で3点を返しましたが、5回コールド負けでした。

## 加藤キャプテンのコメント

### 国労魂を感じた

まずは、参加された10人の選手に感謝申し上げます。老体に？ムチ打って参加する人、あるいはバッティングセンターで練習する人もあり、それぞれが自分の役割を果たそうとする姿に国労魂を感じました。

結果は2試合共コールド負けでしたが怪我無く野球が出来、尚もヒットも毎回近く出てスコア程の力量差は感じませんでした。次回は、悲願の勝利と若い仲間を加えて参加できる様、頑張りたいと思います。



## 編集後記

5月も後半になり新緑の季節になりました。今、梅雨の前が一番良い頃ですね。山へ行かれた方、山菜取りに行かれた方、今年は雪が多いようですね。

エリア本部の野球大会が無事に終了しました。成績は、もう少しのところでしたが、選手のみならずケガも無く無事に終了したことが一番だと思います。

だんだん年齢が高くなり身体が思うように動かなくなってきました。組織拡大をみんなで進めていきます。若い人達と一緒に参加したいですね。



# 消費税大増税ストライク

## 2

### 第2は 社会保障切捨てと 一体の大増税

高齢年金、障害年金の給付削減などを皮切りに、年金支給開始を68、70歳に先延ばしする、医療費の窓口負担を増やす、保育への公的責任を投げ捨てる「子ども・子育て新システム」を導入するなど、社会保障のあらゆる分野で、高齢者にも、現役世代にも、子どもにも、負担増と給付削減という連続改悪を進める計画です。

「社会保障と税の一体改革」といいますが、「一体改悪」がその正体です。

### 第3は 日本経済をどん底に突き落とし 財政破たんも いつそうひどくする

1997年、橋本内閣のもとで強行された消費税の5%への増税と医療費値上げなど総額9兆円の負担増は、当時、回復の途上にあつた景気をどん底に突き落とし、その結果、財政破たんもいつそうひどくしました。



### 消費税10%引き上げで 13兆円の増税

増える結果となりました。今回は消費税10%への引き上げで13兆円もの大増税になるのにくわえ年金額の削減などを含めると年間16兆円、さらにすでに決められた制度改悪による年金、医療などの保険料

### 大企業のリストラ

値上げによる負担増をあわせると年間20兆円もの大増税になります。

しかも、日本経済の長期低迷と世界経済危機、これらを「口実」にした大企業の大リストラ、雇用破綻のもとで、国民の所得が大幅に減り貧困との格差が広がり、多くの中小企



業が経営難におちいり、地域経済が深刻な疲弊のもとにあるさなかでの大増税です。

それは、国民の暮らしにはかり知れない打撃を与え、日本経済をどん底に突き落とし、財政破たんをいつそうひどくすることは、明らかです。



# 原発シリーズ4

## 子どもたちを被爆させた政府の責任は重大

福島原発事故から80日近く過ぎた5月下旬、原発からおおよそ60キロ離れている福島市で、ある市民団体がフランスの放射線測定機関の協力を得て、6～16歳の男女10人の尿検査を行いました。

結果は、10人全員の尿から放射性セシウムが検出されました。その子どもたちは、原発の水素爆発事故当時、およびその後の数日間、屋内に退避をせずに外で遊んでいたり、学校でクラブ活動さえしていました。そして、放射性ヨウ素とセシウムを吸い込んで被爆しました。

こうしたことから、福島県は、水素爆発事故が発生した当時0～18歳の子どもたち全員を対象に甲状腺検査を2年ごとに行い、20歳に達してからは5年ごとに、生涯にわたってチェックしていく仕組みを決め、10月9日から甲状腺検査が始まりました。対象となる子どもは総勢約36万人に上る見通しのことです。

福島第一原発で水素爆発が起きたのは3月12日～15日でした。その翌日の3月16日、当時の枝野官房長官は記者会見で、文科省が原発から半径20～30キロ圏内での放射線量について「直ちに人体に影響を及ぼす数値ではない」「建物の中に、あるいは20キロの内側より外に出てくださいという状況の指示を出しているが、現時点ではここで観測された数値は、そこで活動したらただちに危険という数字ではない」などと発言しました。ところが、文科省は、3月15日浪江町赤宇木地区で毎時330マイクロシーベルトもの放射線量を観測していたのです。

## 子どもが3人に1人が甲状腺癌発生

しかも、3月15日は福島第一原発から北西に風が吹き、飯館村やその先の福島市に汚染が拡散することはSPEEDI（緊急迅速放射能影響予測ネットワークシステム）によって情報を収集できていたのです。にもかかわらず、その情報を公開せず、飯館村・福島市の住民を屋内退避させませんでした。それどころか、学校でのクラブ活動さえも止めなかったのです。そのために子どもたちが被爆し、尿から放射性セシウムが検出されたのです。

チェルノブイリ原発事故では、事故の後に外で遊んでいて被爆した子どもたちの3人に1人が甲状腺癌を発生しています。チェルノブイリ原発事故を教訓とせず、子どもたちを被爆させた行政府の責任は極めて重大であると叫ばないではいられません。

「恐るべき柏崎刈羽原発の危うさ」にいがた自治体研究所編から